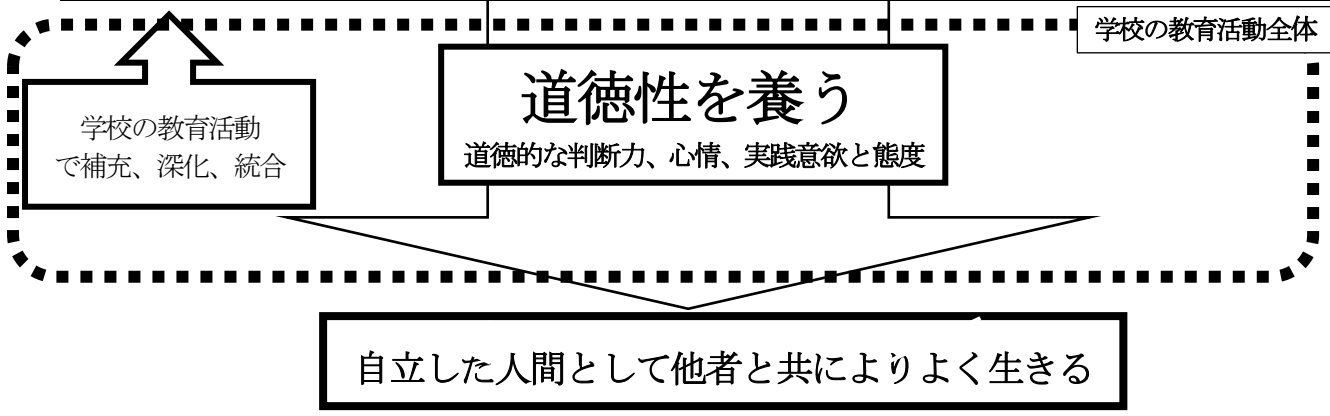


**Q2: 「考え、議論する道徳」の授業づくりをするためのポイントを教えてください。**

A: 学習指導要領解説 第1章 総説には「発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題として捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと転換を図る」と示されている。「考え、議論する道徳」への転換を図るためには、①「問題意識をもつ」②「自分との関わりで考える」③「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」④「人間としての生き方について考えを深める」の四つの学習活動に着目し、これらを授業の中で設定して指導を工夫することが大切である。

**＜授業における四つの学習活動イメージ 例＞** 「考え、議論する道徳」の授業づくり (小学校段階) (中学校段階) より

	段 階	着目した四つの学習活動	道徳的価値理解
導 入	主題に対する児童生徒の興味関心を高め、ねらいとする道徳的価値の自覚を深める上で動機付けを図る段階	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">①問題意識をもつ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">②自分との関わりで考える</div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;">                     ここで扱う問題は                      道徳的価値と関連のある問題                 </div>
展 開	主題のねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童生徒がねらいとする道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;">                         道徳的価値                          の理解を基に                     </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">②自分との関わりで考える</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">③物事を広い視野から多面的・多角的に考える</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">④人間としての生き方について考えを深める</div>	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">価値理解</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">人間理解</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">他者理解</div> </div> <p style="font-size: small;">それぞれの理解を深められるように、対話的な学びの場を設定したり、効果的な発問や問い返しなどを工夫したりする</p>
終 末	児童生徒が自分との関わりでねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめ、今後の発展につなげる段階	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">②自分との関わりで考える</div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; font-weight: bold;">自己理解</div> </div>	<div style="border-left: 2px solid blue; border-right: 2px solid blue; padding: 10px; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">価値理解</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">人間理解</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">他者理解</div> </div>



## 四つの学習活動のポイントと具体的な手立て

活動	ポイント	具体的な手立ての工夫例
①問題意識をもつ	児童生徒の生活や経験などの実態に合わせた、本時で扱う道徳的価値と関連がある身近な問題や社会問題、教材に描かれている問題、学習課題などを導入段階で話題にすることで、児童生徒が問題意識をもち主体的に取り組めるように工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの活用</li> <li>生活経験の発表や話し合いの場の設定 →児童生徒が考えてみたい、話し合ってみてみたいと思えるような発問の工夫</li> <li>教科書等の教材の中に描かれている道徳的な問題を捉えさせる問いかけ (例)「いじめはよくないと分かっているが、どうしてなくなるのか」「きまりは何のためにあるか」</li> <li>ねらいとする道徳的価値が含まれる画像や動画などの提示の工夫</li> </ul>
②自分との関わりで考える	児童生徒の日常生活の経験や共通体験などを想起させたり、児童生徒の実態を把握し意図的に指名したり、児童生徒自身の体験などを引き出せるように発問を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接体験や間接経験を出し合う場の設定</li> <li>ペープサート、紙芝居、場面絵などの活用 →教材の内容が複雑で理解しにくい場合には、場面絵などを活用して、児童生徒が自分事として捉えられるよう工夫する。</li> <li>役割演技等を取り入れる工夫</li> <li>意図的に指名をして自分との関わりについて考えさせる工夫</li> </ul>
②物事を広い視野から多面的・多角的に考える	多面的・多角的に考えさせるためには、様々な視点に気付けるような発問や表現方法の工夫、ペアやグループなど対話する相手の設定の工夫が必要となる。また、道徳的価値の多面性に気付けるような問い返し、考えを広げたり深めたりするための構造的な板書などといった工夫を行うことも大切である。しかし、最も大切なことは、普段から、対話を通して多様な意見を受け止めたり、認め合ったりできる学級づくりをすることである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習形態の工夫 →コの字型、円型、ペア、3人組、4人組など</li> <li>発問の工夫 →条件や状況を変えて考えられるようにする発問、それぞれの立場に立って考えられるようにする発問など</li> <li>問い返しの工夫 →「なぜ、そう考えたの?」「～という考え方もあるがどうでしょうか?」など</li> <li>板書構成の工夫 →時系列に思考の流れを表す、視覚的に意見を比較できるように示すなど</li> <li>意思表示カードや教具などの工夫</li> <li>付箋や思考ツールの活用</li> </ul>
④人間としての生き方について考える	児童生徒が、これまでの生き方を振り返ったり、これからの生き方に希望をもったりすることができるような時間を確保し、書く活動などを取り入れ、記録を集積する。また、学習の過程や成果などの記録(ポートフォリオ)を計画的にファイル等に集積することにより、児童生徒が学習状況を自ら把握し振り返ることができるよう工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>発問の工夫</li> <li>振り返りの時間の確保</li> <li>教師の説話 →道徳的価値に関連した説話などを紹介するが、教師の道徳的価値の押しつけにならないよう注意する。</li> <li>保護者やゲストティーチャーの協力</li> <li>音楽や映像の活用 →これまでの自分やこれからの自分について内省できるように工夫する。</li> </ul>

これら四つの学習活動を工夫改善することで、児童生徒は、多様な考え方や感じ方と出会い、道徳的価値について多面的・多角的に考えることにより、自分の考え方や感じ方をより明確にすることができる。そのためには、日々の学級生活で、児童生徒が、互いに多様な意見を受け入れたり、認め合ったりできる雰囲気づくりが必要である。

【参考資料】 ・ 「栃木県道徳教育ハンドブック」 R02.3 県教委  
 ・ 「考え、議論する道徳」(小学校段階)(中学校段階) H31.3、R02.3 総教セ

